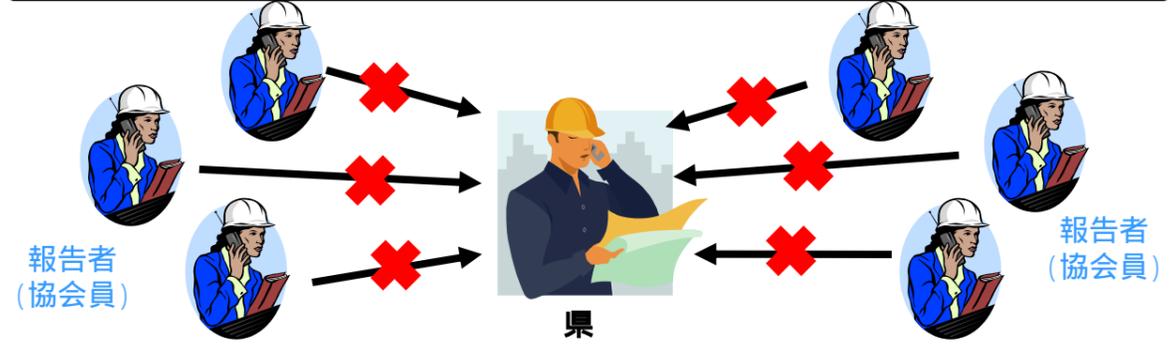


災害情報共有システムの有効性について

現状での問題点

災害時に現場から電話をかけても繋がらない



電話は繋がったが、被災場所がわからない・伝わらない。

被災状況が把握できず、建設業者に指示できない。



情報が輻輳し、同じ現場に建設業者複数到着。



早期の啓開にもかかわらず、他の重要箇所が被災し、結果的に啓開できず。

啓開できたかどうかの状況把握ができない。



災害情報共有システム運用

報告する時
災害時に現場から電話をかけても繋がらない。電話は繋がったが、被災場所がわからない・伝わらない。同じ場所を報告する。

情報を受ける時
被災場所がわからない。報告済みの箇所を新しい箇所として認識する。報告を受ける人員が不足し、電話対応できない。

指示を出す時
正確な位置・状況が把握できていないので指示が曖昧。情報が錯綜しているため、作業の優先順位が付けにくい。

導入



解決

報告時
状況写真と位置情報を送信するので、場所・状況が分かる。

情報を受ける
状況写真と位置情報を共有できるので、場所・状況が分かる。報告済みの箇所を認識できる。人がいなくても受信可能。

指示を出すときの問題
位置や状況を共有できるので的確な指示が可能。広範囲の情報が把握できるので、優先順位付けができる。